

愛することと生きること

1959
作品ナンバー0025

文部省選定 厚生省推薦 第3回教育映画コンクール最高賞 よい映画を薦める会特選
〔推薦〕 売春対策国民協議会 売春対策国民文化会議 東京都教育委員会 全国地域婦人団体連絡協議会 国民文化会議

蚊とはえの駆除、結核対策、そして売春問題と、桜映画が取り組んだ初期の映画のテーマは、貧しかった日本の戦後を反映している。この映画は、売春防止法施行後1周年を迎えてもなおその対策を強化する必要があり、一般の理解と協力を深めるための啓蒙映画として製作された。



物語は、19歳の売春婦たか子が、ドヤ街の一室で自殺をはかるところから始まる。彼女は地検からの連絡で訪ねてきた婦人相談員にあやうく救われたが、病気のうえ妊娠していた。優生保護法の適用が必要だった。たか子は、郷里でバスガールをしていたが、若い坑夫だった実と知り合い、親の反対をおしきって結婚した。実の失業で上京した2人は盛り場に近いドヤ街に落ち着くが、何の技術も持たない田舎出の若い男に職が見つかるはずもない。もぐり売春婦の群がる環境も悪かった。2人はたちまち食いつめて、たか子は街娼に落ち、実とはポン引きをするまでになっていた。

入院後のたか子はやさしい相談員や民生委員に励まされて、実と別れて一人立ちする希望をいだきはじめた。だが実が執行猶予で意外に早く釈放されてくると、たか子はやはりかつて愛し合った実に傾くのだった。それから、婦人相談員と食べるために妻に売春させていた夫との、激しい対決が始まった。怠惰な夫も、妻が自分の留守中仲間と同棲していたことを知ると、愛憎のはざまに苦しむのだった。相談員は妻の貞操を失わせたものは何か、誰がそうさせたのかを、実に考えさせた。相談員の言葉に、実も次第に目覚め、民生委員にも励まされて、必死の職探しが始まった。

劇
35ミリ
白黒／50分

- 自主企画
- 監修
厚生省
- 後援
全国社会福祉協議会

スタッフ

- 製作
山高しげり
村山英治
- 脚本
木村莊十二
佐野美津男
- 演出
木村莊十二
- 撮影
長瀬直道
- 音楽
岡田和夫
- 出演
山田たか子：
小沢弘子
山田実：左右田一平
峰岸相談員：
平松淑美
田中相談員：
内田礼子
婦人相談所所長：
野々村 潔
国光民生委員：
山岸美代子
裁判長： 菅原通済
他